

地域とともにふくいの水産業の あしたに架ける基本計画

令和7(2025)～11(2029)年度 概要版

令和7年3月 福井県

基本理念 [目指す姿]

持続可能な魅力あふれる稼げる水産業へ

1 天然資源の持続的な利用、収益性の高い漁業経営体・就業者の育成などによる、“変化に強い持続可能な水産業へステップアップ”

2 販わいを創出する海業や漁港機能の強化による、“魅力あふれる漁村コミュニティづくり”

3 新たな流通体制の構築、ふくいの魚ファンづくりによる、“地魚の魅力発信と販売促進”

総合指標 基準：令和5年度 ▶ 目標：令和11年度

1. 漁業経営基盤の強化

漁業産出額	養殖産出額	新規就業者数	定置網I経営体の平均漁業産出額
96億円 ▶ 105億円	10億円 ▶ 15億円	100人	1.1億円 ▶ 1.2億円

2. 地域活性化の強化

新たな「海業」実施数	新たな漁港施設の整備数
10件	3件

3. 市場開拓とブランド化の強化

ICT・AIなど先端技術の新規導入数	「ふくいの魚」ブランド認知度
30件	53% ▶ 70%

変化に強い持続可能な水産業へステップアップ

- ・天然資源の持続的な利用の推進
- ・養殖業の成長産業化と新規参入の促進
- ・新たな担い手の確保・育成
- ・収益性の高い漁業経営体の育成

魅力あふれる漁村コミュニティづくり

- ・販わいを創出する「海業」の推進
- ・気候変動や災害リスクをふまえた漁港機能の強化

1 漁業経営基盤の強化



持続的な漁場の利用



漁業参入しやすい環境づくり



漁業経営改革



養殖ビジネスの拡大

2 地域活性化の強化



新たな地域ビジネスの創出



交流人口の増加



防災・流通機能の向上



3 市場開拓とブランド化の強化



新たな市場の開拓



加工による付加価値の向上



ブランド価値・認知度の向上

地魚の魅力発信と販売促進

- ・販路拡大のための新たな流通体制の構築
- ・最新の加工技術を活用した付加価値の向上
- ・需要に応じた販売戦略による「ふくいの魚」ファンづくり

漁業経営基盤の強化

1 変化に強い持続可能な水産業へステップアップ

① 天然資源の持続的な利用の推進

1 DXによる資源管理の高度化

- ・越前がにのデジタル操業日誌によるリアルタイムな漁獲管理
- ・越前がに漁獲管理手法をふくい甘えび、越前がにへ応用 **NEW**



2 環境変動に対応した持続的利用可能な漁場づくり

- ・海底耕耘や魚礁・保護礁などによる豊かな漁場造成と資源の保護
- ・放流効果の高い魚種の放流による資源の添加
- ・環境変化の可視化による藻場の保全・創造およびブルーカーボン・オフセットの活用 **NEW**



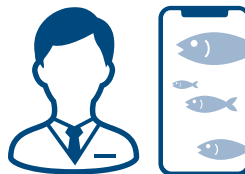
② 養殖業の成長産業化と新規参入の促進

1 ICT・AIなど先端技術を活用した養殖生産モデルの構築

- ・スマート水産技術による生産管理の効率化

2 かつみ水産ベースにおける最先端技術の開発・導入

- ・ふくい水産振興センターを核とした産学官連携による新魚種・養殖技術の開発・実証（環境変化に対応した新たな養殖種苗の開発、陸上養殖技術の開発・実証など）



3 新たな養殖場の整備による生産拡大や新規参入の促進

- ・企業の参入による大規模化
- ・個人経営体から集落経営体への転換 **NEW**
- ・陸上や海面の養殖場の整備による新規参入の促進 **NEW**



③ 新たな担い手の確保・育成

1 経営感覚に優れた水産スペシャリストの育成

- ・県立大学や県漁連・漁協などと連携した漁獲や養殖方法などの高い知識と技能を持つ人材の育成



2 女性や若者などへの魅力発信と活躍できる就労環境づくり

- ・女性や若者に向けた魅力発信
- ・女性や若者が働きやすい労働環境の整備



3 半漁半Xなど様々な働き方を実現

- ・様々な人材の確保・育成 **NEW**
- ・新規就業サポートの充実

④ 収益性の高い漁業経営体の育成

1 経済事業の多角化などによる漁協組織の経営力向上

- ・海業や民間企業との連携による新たな事業展開
- ・経営基盤強化のための漁協合併の検討

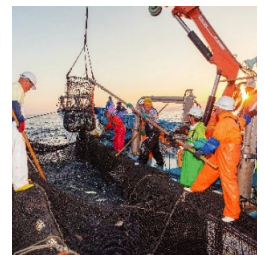


2 共同操業や法人化などによる定置網漁業経営体の収益力強化

- ・共同操業や経営統合による複数漁場管理 **NEW**
- ・操業体系の見直しによる省人・省力化 **NEW**
- ・スマート水産技術による操業の効率化 **NEW**
- ・法人化による経営基盤の強化 **NEW**

3 経営マネジメントの導入による漁業経営体の安定的な事業運営

- ・漁業経営体の経営戦略策定を推進 **NEW**
- ・漁船・機器の導入を支援



地域活性化の強化

2 魅力あふれる漁村コミュニティづくり

① 賑わいを創出する「海業」の推進

1 釣りや加工など海業の推進

- ・漁家民宿を拠点としたブルー・ツーリズムの開発・磨き上げ
- ・漁港を有効活用した賑わい・交流の場づくり **NEW**



2 川魚(アユ・ウナギなど)を活用した川と湖の賑わいづくり

- ・地域の総意による川魚の生息環境の保全・再生



3 次世代に向けた水産業の魅力向上

- ・全国豊かな海づくり大会を誘致 **NEW**

② 気候変動や災害リスクをふまえた漁港機能の強化

1 産地市場の集約化や衛生管理の高度化

- ・各地域の実態にあわせた市場の統合整備を推進
- ・食の安全への消費者ニーズに対応した衛生管理対策の推進
- ・荷さばき所の適切な維持管理、効果的な長寿命化対策



2 岸壁の耐震化など災害に強い漁港づくり

- ・災害発生時における水産業の早期回復体制の構築
- ・嶺南地域の漁港機能の強化(耐震化)を検討 **NEW**
- ・気候変動による海面上昇などの影響をふまえた設計条件の見直し



3 持続可能なインフラ管理

- ・事後保全型の老朽化対策から予防保全型の老朽化対策に転換

市場開拓とブランド化の強化

3 地魚の魅力発信と販売促進

① 販路拡大のための新たな流通体制の構築

1 北陸新幹線など様々な交通網を活用した流通体制の構築

- ・新幹線輸送を活用した首都圏への高速流通の拡大
- ・新たな広域道路網を活用した中京圏への流通の強化



2 ICT・AIなど先端技術を活用した県内市場の活性化

- ・流通・販売関係者との漁獲物情報共有システムの構築 **NEW**
- ・「越前がに」の生産から消費までの履歴管理を強化 **NEW**



② 最新の加工技術を活用した付加価値の向上

1 生産から販売をつなぐ水産バリューチェーンの構築

- ・生産、加工、流通・販売が連携した商品開発



2 消費者ニーズに応じた加工技術の活用

- ・長期保存可能な低温技術の活用による安定供給 **NEW**
- ・「ふくい魚」を使ったお土産の商品化 **NEW**



③ 需要に応じた販売戦略による「ふくい魚」ファンづくり

1 事業者と連動した魅力発信による魚にふれる機会の増加

- ・PRイベントやフェアにより「ふくい魚」認知度の向上
- ・「ふくい魚」の県内需要創出
- ・量販店などと連携した「ふくい魚」の供給拡大・品揃えの充実 **NEW**



2 「極」ブランドを核とした「ふくい魚」まるごとブランド化

- ・「ふくい魚」ブランドイメージの確立 **NEW**
- ・県内外での「ふくい魚」取扱店の増加

